

千葉大学医学部附属病院で経皮的冠動脈インターベンションを受け薬剤溶出ステントを留置された患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年1月17日

循環器内科

循環器内科では、経皮的冠動脈インターベンション施行後の患者における短期間の抗血小板薬の臨床的意義に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2016年4月1日～2024年12月31日の間に循環器内科で経皮的インターベンションを受け薬剤溶出ステントを留置された方

1. 研究課題名

「実臨床における薬剤溶出ステントを用いた経皮的冠動脈インターベンション後の短期間の抗血小板薬2剤併用療法の有効性と安全性」

2. 研究期間

2025年承認日～2027年3月31日

この研究は、観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

本研究は、冠動脈疾患の治療で行われる経皮的冠動脈インターベンション（PCI）を受け薬剤溶出ステントを留置された患者さんを対象にしています。PCI後に2剤の抗血小板薬を用いる治療（DAPT）の期間は、研究結果の蓄積とともに近年短期間化が進んでいます。それを受け、当院でも過去と比較し最近PCIを受けられた方のDAPT期間は短期間となっています。今研究では、短期間のDAPTが、長期間と比べて全死亡や心臓関連の病気、出血の合併症にどのような影響を与えるかを調べることを目的としています。上記対象のDAPT期間、背景情報、1年後の予後・心臓関連の病気・出血の合併症の情報を収集し統計的解析を行います。この研究の結果をもとに、患者さんにとってより安全で効

果的な治療法を選ぶための参考となる情報を提供されることが期待されています。

本研究においては、氏名等の個人を識別できる情報を削除し、研究 ID に置き換えた情報は千葉大学循環器内科で、解析がおこなわれます。氏名等と研究 ID との対応表は外部には提供されません。

4. 研究に用いる情報の種類

カルテの情報のみを利用させていただきます。

情報に関しては、診療記録に記載される年齢、性別、生活歴（飲酒・喫煙など）、既往歴、併用薬、家族歴、血液検査値、カテーテル治療のデータ、臨床イベント（全死亡や心臓関連の病気、出血の合併症）

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：循環器内科 診療准教授 北原 秀喜

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院循環器内科冠疾患治療部において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

循環器内科 医員 渡邊良太

043（222）7171